

## 健康日本21こまき計画推進会議 議事録

【日時】平成25年7月30日(火)14時50分～16時

【場所】保健センター 大会議室

【出席者】

委員：12名

後藤恒規、吉田雄一、森雅典、志水哲也、朴美子、高木康司、安藤和憲、舟澤敏子、田中良幸、鈴木英治、木村隆(代理：久納)、伊奈慶子

事務局：10名

舟橋健康福祉部長、廣畑健康福祉部次長、江崎所長、千葉係長、岡本係長、山中主査、森主任、榊崎主任、宮田、落合

欠席委員：4名

木全勝彦、小川裕、小川鎮、吉田友仁

【次第】

1 開会

2 議題

(1) 平成25年度健康日本21こまき計画推進会議のスケジュールについて(別紙1)

(2) 健康日本21こまき計画 健康こまきいきいきプラン最終評価及び次期策定のための市民意識調査アンケートについて(資料1～2)

3 報告

(1) 健康こまき いきいきプランの平成25年度の推進状況及び新規内容について(資料3)

4 閉会

【議事】

1 開会

2 議題

(1) 平成25年度健康日本21こまき計画推進会議のスケジュールについて(事務局説明)

(2) 健康日本21こまき計画 健康こまきいきいきプラン最終評価及び次期策定のための市民意識調査アンケートについて(資料1～2)

(委員)：アンケート対象の年齢は何歳ですか？

(事務局)：調査は、20歳以上の方で3500人を対象に行います。

今回アンケート案をお示ししました。この内容で実施をしてもよろしいかご意見をいただきたい。

(委員)：問56の設問文は質問になっていないのではないのでしょうか？「下記のうちの言葉をかけられると」を入れた方がよいと思います。

(委員)：問56の設問文には「以下のどのような言葉をかけられると」と入れてはどうでしょうか。また、回答数は1つだけですか。

(事務局)：回答数は1つだけです。

(委員)：問56の設問文は決め付けたような質問になっています。求めているものが、「どのような言葉をもらったら『今のままの自分でよい』と思うか」という問いは、回答者にとってかなり難しいと思います。

(会長)：考え出したらきりがありません。ひとまずは、調査をする前提で確認をいただきたい。

調査票はいつまでに完成させて、いつ対象に発送する予定なのですか。そのためには、委

員は意見をいつまでに言えばよいのですか。

(事務局)：1週間程度でご意見をいただきたいと思います。

(委員)：問58の「地域」とはどの範囲になりますか？どんな地域にも問題を抱えている人はいるに決まっています。回答する人が、どの範囲の地域で答えるか迷うだけではないでしょうか。

(事務局)：回答者ご自身が住んでいらっしゃる、あるいは思っている「地域」で回答いただければと考えています。

(会長)：調査対象は小牧市民なので、健康増進のために必要な回答がいただけるように配慮する必要があります。先に延ばしても仕方がないので、各委員からは1週間程度でご意見をいただきたい。

(事務局)：8月9日(金)までに委員の皆さまからご意見をいただきたいと思います。いただいた意見を反映して、最終のご確認をいただければと考えています。

(会長)：調査票案の修正については、各委員にフィードバックをしていただくということです。一般市民の視点に立って分かりやすく、回答率が高く、次の対策につながるものにしたと思います。

P8Q34-1「歯科医院に行っていない理由」を尋ねていますが、問題がなければ歯科医院には行かないと思います。

### 3 報告

#### (1) 健康こまき いきいきプランの平成25年度の推進状況及び新規内容について(資料3)

(事務局)：歯の部会より「寝たきり等の状態になり、かかりつけ歯科がなく、治療が困難な場合がある。この予防策として60代、70代の方に歯科疾患予防や口腔機能向上に関する知識の普及を図るためのご意見やアドバイスをお願いしたい。

また、乳幼児健診でむし歯の割合が高い地域がある。その対策として地域でできる活動についてご意見をいただきたい。

(副会長)：寝たきりになって、かかりつけ歯科医がいなければ往診してもらえる先生にコンタクトする、60、70歳代は節目健診を受診してもらって、かかりつけ医をつくるということだと思います。

(委員)：特定健診でも歯科に関する項目があります。

(副会長)：特定健診でも歯科受診を促してもらえればよいと思います。

(委員)：地域ごとの特徴はわかっているのですか。

(事務局)：市内6地区のうち、味岡地区の岩崎、小牧南地区でむし歯の割合が高い傾向があります。

(会長)：具体的な改善策があればよいのですが、難しいと思います。

ラジオ体操の話題が出ました。夏休みで子どもたちはラジオ体操をしているのですか？

(委員)：ラジオ体操をするのは、夏休みが始まって1週間程度だけです。子ども会が主体となってやっています。

(委員)：学校でもラジオ体操をしているところはほとんどありません。

(事務局)：大人であればラジオ体操の音楽が流れれば体操ができます。3分でも有効に使うことができれば、効果的に体を動かすことができるのではないかと考えています。

(会長)：保健センターで率先してやらないと、みんなはやらないと思います。

(事務局)：保健センターでは決まった時間にラジオ体操の音楽を流して、体操しています。

(委員)：ラジオ体操について、温水プールでは一定の時間にラジオ体操の音楽が流れ、体操をするようになっていきます。しかし、ある時20歳代の人でラジオ体操を知らない人がいました。そんな事があるのかと不思議でした。

(委員)：最近では、小学校でも中学校でもラジオ体操ではなく、学校ごとにオリジナルのストレッチを兼ねた体操を作っています。ラジオ体操がなくなっている状況です。高校ではさらにやらない状況です。

このように子どものうちにラジオ体操をしないと、将来的にはラジオ体操を知らない大人

が増えて、さらに子どもに指導できない状況になっていきます。これはゆゆしき事態だと思っています。

(会長)：体を動かすことは大事です。

今年度の重点項目はありますか。

(事務局)：保健センターだけで事業を考えて実施していくとしても、「待ち」の姿勢になってしまいます。小牧市には、現在保健連絡員が240名、OBは1,000人を超えている状況です。連絡員と力を合わせて進めたいと考えています。

(会長)：できるだけたくさんの参加を得て、目に見える活動をしていかなければいけないと感じています。

本日はありがとうございました。

(事務局)：ありがとうございました。